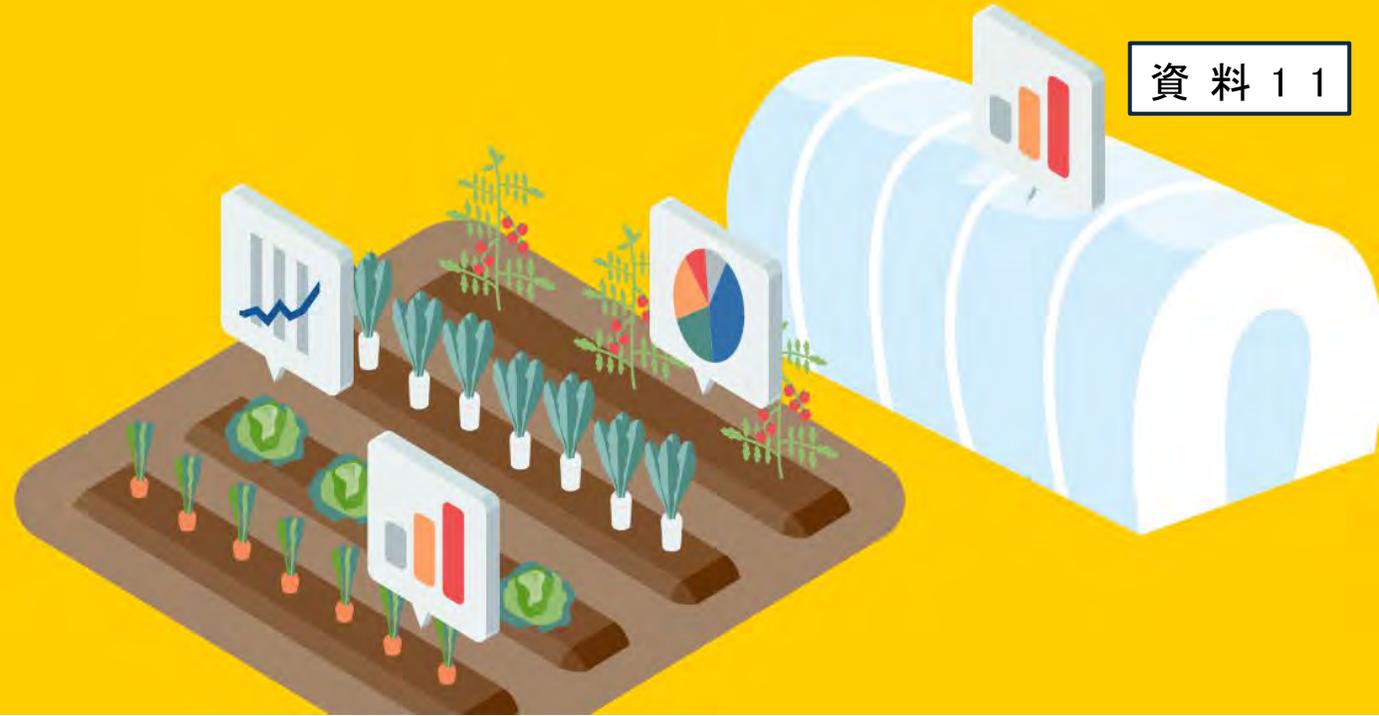


# あらゆるデータを 農業経営の力に

農業を取り巻くデータを一元化・分析し、  
農業経営判断に資するインサイトを提供します。



## RightARMで実現するデータ駆動型農業経営

テラスマイル株式会社  
西村 威人

# 自己紹介



西村 威人  
テラスマイル株式会社 事業開発部長

## <経歴>

- ・千葉県千葉市出身。
- ・IT企業にて、15年にわたり、様々な業界/企業のシステム導入や運用保守業務に従事した後、2020年3月に香川県三豊市へ家族で移住。
- ・移住先で農業法人に就職し、露地野菜の栽培管理、出荷業務、Global GAP認証取得等の業務を経験する中で、農業におけるIT活用の必要性を痛感。
- ・2022年10月にテラスマイルに入社し、スマ農など複数の農水省事業を担当したほか、プロジェクトマネージャーとして、多くの自治体/JAのお客様に対し、RightARMの導入から運用サポートまでを一貫して担当。農業 x ITを実践中。

# テラスマイル/RightARMのご紹介

# 会社概要

会社名	テラスマイル株式会社
設立年月日	2014年4月
本社	宮崎県宮崎市橘通西1-5-30
資本金	10,000万円
事業概要	データ活用による営農支援サービス「RightARM」の提供
従業員数	役員・従業員 23名 ※2024年4月1日時点
主要株主	Future Food Fund, ヤンマーグループ, 農林中央金庫 (JAグループ), 誠和, イチネンホールディングス, エムスクエア・ラボ, K4ベンチャーズ 宮崎太陽キャピタル, ベータ・ベンチャーキャピタル等
主要顧客	農業法人, 生産者グループ, 農林水産省, 行政機関, 地方自治体, JAグループ 他

## 主な活動・受賞歴等

2014年  
IBM BlueHUBで最優秀賞を受賞



2017年  
農水省と総務省のA I 開発プロジェクトに着手



2020年  
JAアクセラレータ、  
JR東日本スタートアッププログラムに参加

2022年2月  
農業経営管理クラウド「RightARM for EX」リリース  
農業情報学会 学会賞受賞



2023年4月  
J-Startup KYUSHU 選定



# 会社概要



**ずっと、農業経営へのデータ活用をやってきている会社**

散らばった営農データの一元化…  
KKD（勘と経験と度胸）からの卒業支援…  
農業業界でのデジタル化導入の在り方…

様々な切り口から「目標との差」や「対象範囲の環境」を見える化した成績表

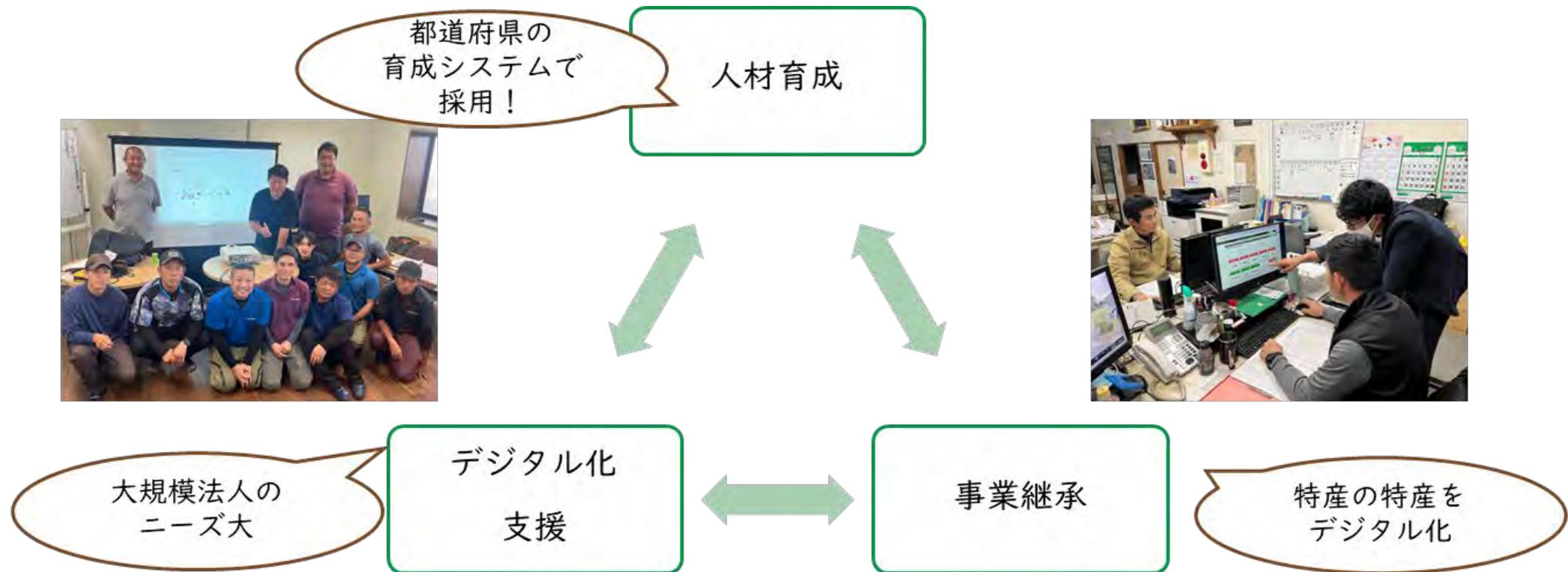
圃場別比較

選果データ分析

選果データ分析-2

# テラスマイルの事業

- ・テラスマイルは、創業以来10年間を、農業の“データ”と共に歩んできたスタートアップ企業です。
- ・「データ活用」を切り口に、北海道から沖縄まで、全国様々な産地の課題解決を支援しています。
- ・人材育成、事業継承、デジタル化支援の3つの柱で事業を育ててきました。



## テラスマイルの実績

- ・2022年にサービスを「地域・産地向け」にリニューアルしました。3年間で延べ**60地域・産地**が弊社サービスを利用しています。
- ・活用されている品目は野菜・果樹・茶で**25品目**、登録された圃場数（畑の枚数）は**1万件**、センサーの普及でデータ件数は**4億件**を突破しました。

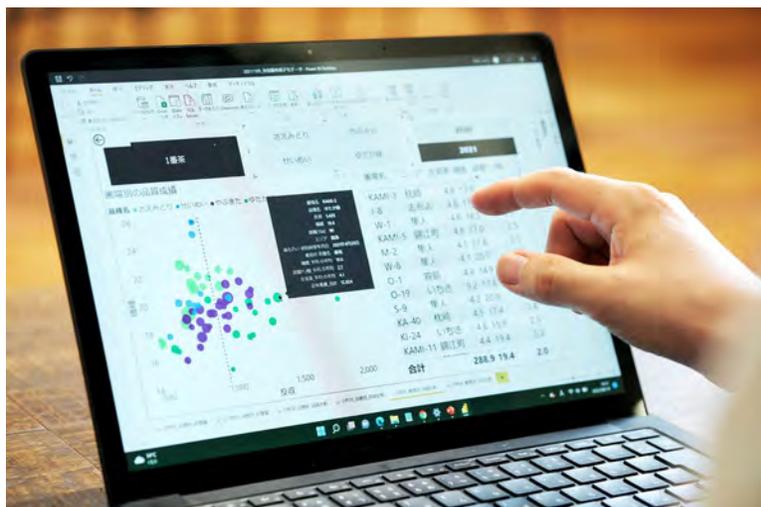


# 基幹プロダクト: RightARM

- RightARMは、農業経営者が「データ駆動型農業経営」にシフトできるクラウドサービスです。
- 農業を取り巻くデータを一元化・分析し、「デジタルの力を活用した再現性の高い農業」をスピーディに実現します。



## RightARMの分析画面例



露地野菜では圃場ごとに実績が分析可能。収穫量のデータだけではなく、売上や気象データを、圃場ごとに集計した情報が、**1枚で表現できる画面**を実装。

「圃場カルテ<sup>®</sup>」では圃場ごとの成績表をPDF出力。生産者・圃場ごとに出力して、実績評価や分析に役立てることが可能（JA等の総会でも使用）。



# 産地におけるデータ活用事例のご紹介

## 事業継承の取り組み（未来へのタイムカプセル）

- ・市町村が地域の特産品の継承をする際に、RightARMが活用されています。
- ・「地域特産品の技術・知見をデータで整理して、未来に継承する」。まさに、技術を一度データのタイムカプセルに入れて、残していくプロジェクトに取り組んでいます。



# 取り組み事例のご紹介

## 秋田県横手市

対象品目

ホップ

目的  
背景と

- ・秋田県横手市の大雄ホップ農業協同組合（大雄ホップ農協）は、日本有数のホップ生産地として知られていますが、近年は後継者不足が深刻な課題となっています。特に、新規就農者が経験や勘に頼らずに安定した収穫を得ることが難しく、技術継承の仕組みづくりが求められていました。
- ・この課題に対応するため、RightARMを活用してホップ栽培の作業をデータ化し、**標準化されたマニュアルの整備**を目指すプロジェクトを2024年に開始しました。プロジェクトの目的は、新規就農者でも、適切な作業量や段取り、収穫適期を把握し、ホップ生産に携われるようにすることです。

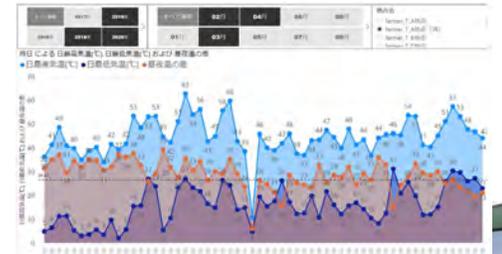


取組内容

- ・RightARMでデータ収集・蓄積・可視化の仕組みを構築しました。
- ・農家ごとに異なっていた作業名称（例：「糸下げ」）を統一し、データの整合性を確保するとともに、現場での記録負担を軽減するため、圃場で素早くメモが取れる様式で記録フォーマットを作成し、実用的なデータの蓄積を可能にしました。
- ・異なる栽培スタイルや土壌条件を持つ農家の作業記録を分析し、作業量の違いを具体的な数値として把握しました。

今後の展望

- ・2年目となる2025年は、ホップの生育データ（例：花芽の形成時期、開花時期）を積算温度と照らし合わせて記録し、より安定した収穫につながる管理手法の確立を目指します。また、誰でも標準的な収穫量を得られるマニュアルの作成を進め、新規就農者が収益を上げられる基盤を築くことで、**産業の持続性を高める**ことを目指しています。

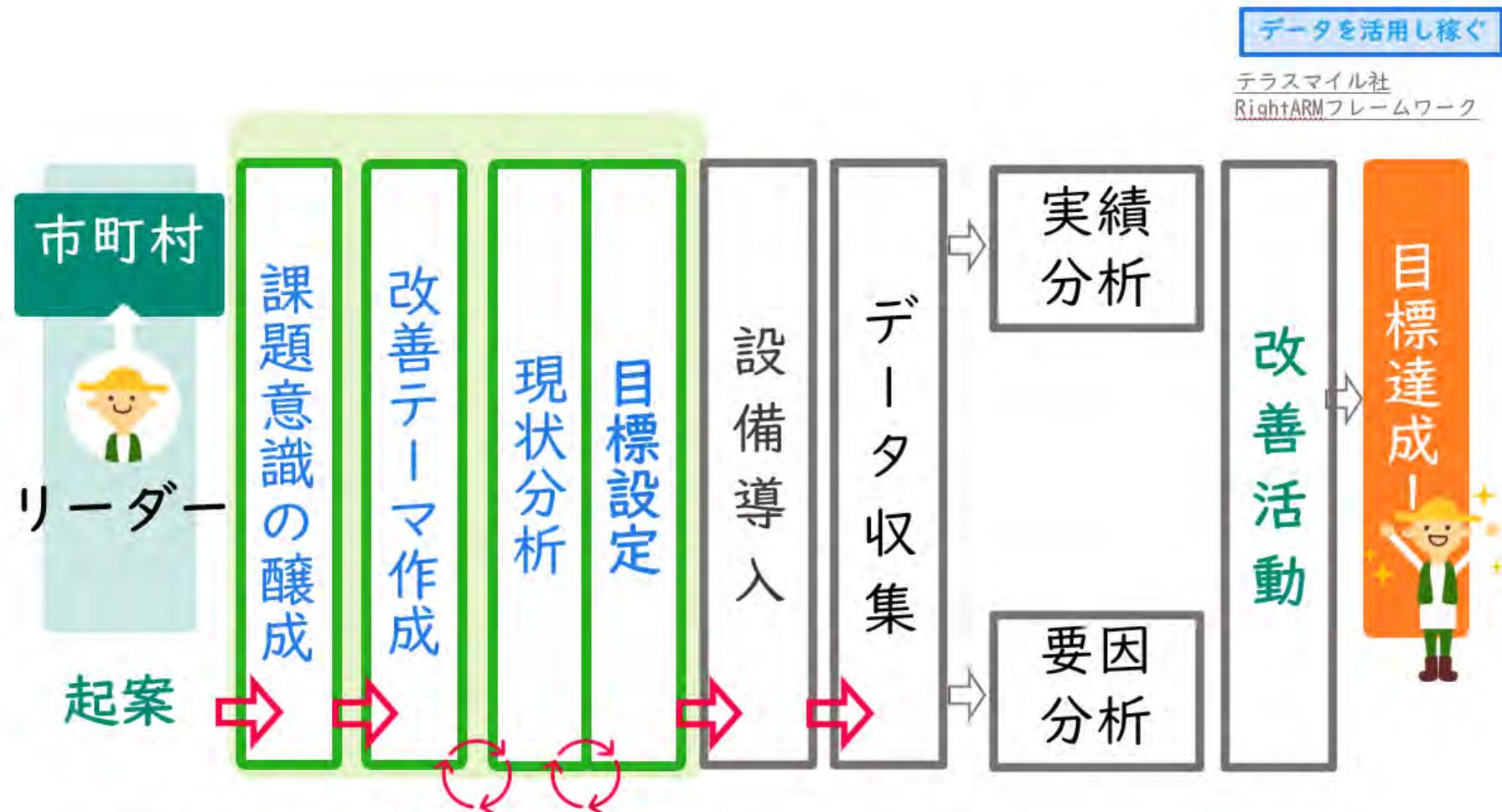


## 私たちの考える産地におけるデータ活用の課題

- ・農業における（農業に限りませんが）システムやデータ活用は、現場の方々の運用（業務オペレーション）に組み込まれて初めて価値が出るものです。つまり、データを活用するにあたっては、農業現場において、データを活用する体制やプロセス、運用手順や業務手順が作り上げられ、定着しているということが必達事項になります。
- ・システムやデータを活用する体制（組織、人材、マインド）とプロセスをいかに現場にしっかり作り上げ、自走していただけるようにするかが、農業におけるシステム/データ活用という切り口で産地支援をする際の最も重要な課題であると認識しています。
- ・この現場が実現できていないと、システムを導入しても意味がなかった、データを収集してもそれを活用するに至らなかった、といった結果になってしまう可能性が高まります。そうならないよう、私たちはこのサポートをすることに全力で取り組んでいます。



# データ活用の導入プロセス



データを活用するためには「目標設定」を中核とした**流れの構築**が重要

# データ活用の現状と課題

Q. データ活用に取り組んでいない理由を教えてください。

	回答	回答数	比率
1	データ活用に取り組む必要性を感じない	18	43.9%
2	データ活用とはそもそも何かがわからない	7	17.1%
3	データ活用に取り組んでみたいが手間がかかりそう	4	9.8%
4	データ活用に取り組んでみたいがやり方がわからない	7	17.1%
5	データ（栽培情報）を出すことについて不安がある、信用できない	1	2.4%
6	その他	3	7.3%
7	無回答	1	2.4%
	合計	41	100.0%

※弊社調べ

# お問い合わせ

社名 テラスマイル株式会社 (TERRACE MILE, Inc.)

資本金 10,000万円 (資本準備金含む)  
※2024年4月1日現在

株主 JAグループ / Future food fund 株式会社 (オイシックスグループ) / 関西電力グループ  
エムスクエアラボ 他

所在地 【本社】  
〒880-0001 宮崎県宮崎市橘通西1-5-30  
TEL 0985-65-9196

事業内容 データ活用による営農支援サービス「RightARM」  
の提供  
営農支援コンサルティング

役員・従業員数 23名 ※2024年4月1日現在

私たち、農業データのプロフェッショナルと一度お話しませんか？

データ活用のあり方、貴団体での活用方法のご紹介、ワークショップ形式での意見交換などお気軽にお問い合わせください。

＜お問合せ先＞

事業開発部

company@terasuma.jp

0985-65-9196

メールでもお電話でも、まずはお気軽にご連絡ください。



てらすま